

第9章

アルカディアへの道

1990年以降の日本の課題

- バブル後を三つの時期に分けてみる
 - 1990年～1995年：バブル後　： ¥/\$141～ 97： 6年：非正規雇用率20%（1990年）
 - 1996年～2008年：円安の時期： ¥/\$113～101：13年：非正規雇用率22%→34%
 - 2009年～2012年：円高の時期： ¥/\$ 93～ 83： 4年：非正規雇用率35%（2012年）
- 円安の時期に非正規雇用が拡大している
- 円高の時期に色々酷いことが行われて、社会を収縮させている
- TPPに込められた米国の意図は？
 - 米国の得意分野は、農業、金融、情報。農業の自給率は90%
 - 日本の得意分野は、自動車産業で自給率は90%超え
 - しかし日本の農業の自給率は39%。
 - 過去・現在の産業：自動車
 - 未来の産業：医療、保険、知財、情報、農業
 - 日本は未来の産業を犠牲にして過去・現在の産業の自由化に力点を置いている
 - 米国は未来の産業の自由化に力点を置いている
 - 過去・現在の産業は自国での成長を望めず、工場をアジア地域に移転
 - 向上が移転した穴は未来の農と食産業にとって絶好の機会
 - 消費地生産主義の旗を掲げてTPPと対峙すべき
- 経済で手を結ぶ中国と米国
 - 米中の戦略的依存関係
 - 農業が生産過剰の米国VS食料不足の中国
 - 中国のアキレス腱は三農問題（貧しい農家、困窮する農村、産業として機能しない農業）
 - 中国の砂漠地帯の農業開発に米国の先進的農業技術を活用することの可能性
- 日本の農村自給圏確立が東アジア結束の鍵
 - 中国の課題は反収が極めて低いこと→三倍増が期待できる
 - 日本の農村が自給圏を確立すれば再びアジアの先達としての期待を担うことになる

「八百万の神」の宿る里山資本主義を



市場経済のベースにある一神教的価値観

- 米国の先導する世界資本主義のベースには一神教的な価値観がある
- 米国建国の始祖はメーフラワー号に乗って米国に渡ったカルバン派のプロテスタント達だった
- 米国発の資本主義は冷戦後に全世界を覆い、弱肉強食の世界資本主義に変貌した

一神教的資本主義からの解放、そしてアルカディア（桃源郷）へ

- 一神教的資本主義からの解放は、日本的「八百万の神」が宿る日本的な複眼思考を導入することしか方法はない
- 地域の神々が導く道を進むこと
- 130年前に日本を紀行した、旅行家イザベラ・バードは日本の地域を導く道を発見した
 - 「米沢の平野は、南に繁栄する米沢の町があり、北には人々がしばしば訪れる湯治場の赤湯があって、まったくエデンの園である。（中略）豊穡にして微笑む大地であり、アジアのアルカディアである」
 - 「繁栄し、自立し、その豊かな大地のすべては、それを耕す全ての人に属し、圧政から解放されている。これは専制政治下にあるアジアの中では注目に値する光景だ」
 - 「美しさ、勤勉、安楽に満ちた魅惑的な地域」
 - 「どこを見渡しても豊かで美しい農村」
- この道ではどんなに努力しても富豪になることはありません
 - 農村部の価値は隣人との共同作業によって生まれるから
 - 地域に富豪を産むほどの消費者もいないから
- この道で期待される自由は、自らの選択によって他者に及ぼす影響に対してしっかり責任を持つことによって約束される

農村の自立を後押しし始めた国

- 電力の小売り完全自由化
 - 再生エネルギーの買取制と対で農村のエネルギー自給を後押しする
- 電線地下埋設の義務化
 - 農村の景観を美しくすることを後押しする
 - 市街地の再開発を後押しする
 - 市街地再開発で木造のみに制限すれば製材と建築の地消地産で森の事業が活性化する
- 産地認証制
 - 輸入原料に依存する加工食品業に対抗する事を後押しする

東京の難渋を誰が解くか・・・30年後東京を養っているのは農村

- 憲法前文
 - 「われらは、平和を維持し靈獣、圧迫と偏狭を地上から永遠に排除しようと努めている国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思う。われらは全世界の国民がひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。（中略）日本国民は国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達することを誓う」

アルカディアを夢から現実にするために

福澤諭吉が見た明治維新

- 「お上に従っていればなんとかなる」という江戸時代に形成された日本人の体質が日本国の独立を妨げる
- 日本が欧米列強に食いにされないためには「個」の確立が大切だ
- 学問は個の自立のためにある
- 「どんな時代でも、もっとも多い者は、体制に順応して一生を送る連中である。——いわゆる世論とは、かかる連中に生じた議論にほかならない——少しでも枠外にはみ出す新説に対しては、ただちにこれを危険思想として圧迫し、無理やり世論の枠内に押し込んで、天下の議論を画一化しようと考えたがる」（文明論の概略）

今こそ福澤諭吉に学ぶとき

- 独立自尊
 - 依存することがなければ個人は自由であり、その自由な人間同士が切磋琢磨することで、より良い社会が実現する
- 地域の自立
 - 自給圏をつくり、存続させて行くために経済や食を独立させる
 - 自給圏の繁栄の上に国家の独立が生まれる

理想を思い描くことからすべてが始まる

- 30年～40年前に欧州でいまの日本と同様な状況が生まれた
- そのとき一大決心をして新しい道に進路を選んだ
- その結果今の欧州の農村ができあがった
- その欧州を見て日本の農村のゴールを描くべき
- 理想を高く掲げて歩み始めることで良い循環が生まれる
 - 自立を求める住民が地域社会の可能性に責任を負って、自由を謳歌し活発に活動を始める
 - その空気を求めて都会から元気な人々が農村にやってくる
 - 向都離村した女性達も職と自立を求めて帰ってくる
- 若者達が新しい農業にチャレンジして、人口減少が解消する
- 住民の消費生活が変わって、お金の循環が変わる

農村の景観の大転換

- 水田の段々が緩やかに傾斜した畑地や草地になって下の畑地につながる
- 畦道や段々の法面の部分を覆っている雑草や灌木が消えてなくなる
- さっぱりした農村景観が変わる

理想は現実を生み出す力になる

- 「理想の旗を高く掲げて、多くの人々の意識を変えて、地域内外の人々の支援を集め流ることができれば、それぞれの地域にスマート・テロワールが誕生し、アルカディアの民のささやかだけど確かな幸せを実感できる日がくる



スマート・テロワール
日本の明日の農村



スマート・テロワール

日本の明日の農村